

# 家計診断

## 退職後、旅行にいくら使える？ 金融資産の取り崩しに不安

### 相談

夫婦ともに地方公務員で現在60歳。退職金を受け取ったばかりなので、夫婦合わせて約4000万円の金融資産があります。旅行にでも出かけたいと思っていますが、先行きの不安から、お金をたくさん使ってしまうのが、海外旅行はなかなかのハードルがあるように思っています。わが家の状況について

す。将来の生活に支障を来してはいけないし、2人の子どもの結婚や住宅取得の資金を少しは援助してやりたい。夫婦合わせた公的年金の手取りが年々60万円、生活費の支出が月々20万円、税金や社会保険料の支払いが年間約80万円です。今後の資金計画を立てたいと考えています。

リタイア世代で、このように不安を抱えている方は多いのではないのでしょうか。せりかへ自由な時間があるのに、やりたいことを我慢するのは、いかにももったいない。将来を見通すために、家計の収支を試算してみたい。

相談者の場合、年間の収入の合計が800万円、固定的な支出が300万円。旅行などの余暇費を仮に60万円とすれば、家計収支は年80万円の赤字となり、この分、金融資産を取り崩すこととなります。余暇費を80万円以下に抑えれば、家計収支は黒字です。

今年を基準として、家族の年末時点の年齢、収入・支出、年間の収支、金融資産の残高を一覧にしたのが左下の表です。

基本生活費と余暇費は、年1%の上昇を見込んでいる。いまは物価は下落気味ですが、中国やインドなど人口の多い新興国の経済発展が著しい中、食糧やエネルギー

### 資産の推移、試算を ■ 運用次第で大きな差

「は単純インフレ傾向が顕著な可能性が高いでしょう。シミュレーションは「入りは控えめ、出は多め」にすれば、より安心です。パソコンを使う方なら、インターネット上に収支を試算できる無料ソフトがいくつかありますので、「キャッシュフロー・シミュレーション」といったキーワードで検索してみてください。

さて、相談者の場合、旅行による赤字を埋めため、年30万円ずつ金融資産を使っていくこととなります。それでも、「夫婦が88歳の時点で3000万円を越える金融資産が残っている勘定です。」つまりまったく不安に思う必要はないということです。

さらに豊かで楽しいリタイア後を送るため、もっと多くの資金を使っても、将来足りなくなるなという心配はして大丈夫です。

まず旅行は優雅に海外へ行くことを考えて、余暇費を倍の年120

	基準年 2010年	1年目 11年	2年目 12年	25年目 35年
相談者	63歳	64歳	65歳	88歳
妻	63歳	64歳	65歳	88歳
長男	32歳	33歳	34歳	57歳
長女	30歳	31歳	32歳	65歳
収入(万円)	公的年金(夫)	210	210	210
	公的年金(妻)	140	140	140
収入合計	350	350	350	350
支出(万円)	基本生活費	240	242	245
	余暇費	60	61	61
	一時的支出			
	税金・社会保険料	80	80	80
支出合計	380	383	386	419
年間収支(万円)	-30	-33	-36	-69
金融資産残高(万円)	4470	4437	4401	3228

  

運用利回り別金融資産残高の推移

「ここでポイントとなるのは、金融資産の運用利回りをいかに高めるかです。利回りゼロとする88歳時点で資産残高は607万円

は、援助の平均とされる1人100万円、住宅資金は各300万円と仮定して見ましょう。金融資産の残高はゼロのようになり、推測します。

「ここでポイントとなるのは、金融資産の運用利回りをいかに高めるかです。利回りゼロとする88歳時点で資産残高は607万円

現在の低金利下では、リスクをとらずに2~3%で運用するのは難しいですが、目標利回りが1%程度なら、預金と個人向け国債で達成できると思われます。また、残ったお金が必要になる時期に満期となる商品を選びましょう。

目標利回りを2%にする場合、FRP(フロンティア)とコンサルティンフ(ファイナンシャルプランナー) 植田 啓太

に減っています。想定外の出来事が起きると対処が困難になるかもしれない。しかし、今後30年間の平均利回りが仮に2%だったら、88歳時点で残高は1700万円以上です。3%なら、なんと88歳で3000万円を越えます。

現在の低金利下では、リスクをとらずに2~3%で運用するのは難しいですが、目標利回りが1%程度なら、預金と個人向け国債で達成できると思われます。また、残ったお金が必要になる時期に満期となる商品を選びましょう。

目標利回りを2%にする場合、FRP(フロンティア)とコンサルティンフ(ファイナンシャルプランナー) 植田 啓太